

小学校第5学年 音楽



端末で自分の担当するパートの音を消した音源を聴き、パートの役割を考える。

小学校第5学年 音楽 「曲想を感じ取って表現に生かそう」

■ 題材の目標

曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、各楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付け、音楽の縦と横との関係など曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、器楽合奏に親しむ。

■ 題材の概要

「威風堂々」（エルガー作曲）の器楽合奏にパート毎に取り組む。ここでは端末を用い自分の担当するパートの音を消した音源を聴く活動を通して、各パートの役割などについて考える。その後、全パートが揃ったグループで、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して合奏する。

■ 題材の指導計画（3時間）

第1次

- ・「威風堂々」の範奏を聴き、曲想と音楽の構造との関わりを理解する。

第2次

- ・音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもち。
- ・思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏する技能や、各楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏する。

■ 学習活動の概要

CDで合奏全体や各パートごとの範奏を聴き、各パートの旋律や楽器の音色の特徴を捉える。
各パートのリズム打ちをしたり、音名唱をしたりした後、主な旋律をリコーダーで演奏したり、各パートを楽器で演奏したりする。

パートごとのグループで、自分の担当するパートの音だけを消した音源を端末を用いて聴き、自分のパートの役割について考える。

パートごとのグループで考えた各パートの役割について、全パートが揃ったグループで報告し合い、それを手掛かりにしてどのように演奏するかを考え、互いの音を聴きながら演奏したり、他のグループの演奏を聴いたりする。

■ 資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2時）

【学習活動の場面】

「威風堂々」の合奏におけるパートの役割という音楽の縦と横との関係に着目し、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する学習場面である。最初にパートごとのグループに分かれ、端末を用い、自分の担当するパートの音だけを消した音源を聴き、自分のパートの役割について考える。その後、全パートが揃ったグループで各パートの役割について報告し合い、それを手掛かりにして、どのように演奏するか表現を工夫していった。

【子供の「深い学び」の姿】

パートごとのグループで、自分たちが担当するパートの音だけを消した音源を再生する。

A「私たちの低音パートが無くなると、迫力が無くなって、堂々とした感じでなくなるね。」

B「そうだね。低音は合奏全体を支えて、迫力がある合奏にする役割があると思う。」

次に、全パートが揃ったグループで報告し合う。

A「低音パートが無くなると、この曲の堂々とした感じが出なくなるように感じました。」

C「低音パートは合奏全体を支える大切な役割があるんだね。」

B「だから、低音パートは他の楽器を支えられるように響く音で演奏して、迫力が出るようにしたいです。」

【当該指導での「深い学び」】

合奏譜（スコア）を見ると横方向に各パートが示され、縦にパートが重なっていることが分かる。パートの役割を意識して表現を工夫することは、すなわち音楽の縦と横との関係をよりどころとして、どのように演奏するかについて思考・判断していくことになる。特定のパートだけ消すという、いわゆるマイナスイオン機能によって演奏をシミュレーションすることで、パートの役割について実感し、それを根拠に表現を工夫していくことにつながっている。

【活用したソフトや機能】 カトカトーン（音楽制作作用アプリ）

■ 指導上の工夫と ICTの利活用

- ① Webブラウザで利用できる音楽制作作用アプリには、予め合奏の全パートの音源データが入っている。ミュート機能を用い、聴きたいパートだけ選んで聴いたり、特定のパートを消して聴くことができる。

* 合奏全体を聴いて全体の響きを確認めたり、自分の担当するパートだけを聴いて摸奏したりすることも可能であり、子供たちが主体的に活動に取り組むことができるよう工夫している。

- ② 考えた各パートの役割を、全パートが揃ったグループで伝え合い、他のパートの役割やパート同士の関係を考えながら工夫できるように配慮している。

* 自分のパートだけでなく、合奏でのパート同士の関係に視点をもてるようにしている。



学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第2章第6節 音楽

第2 各学年の目標及び内容〔第5学年及び第6学年〕 2 内容

A 表現

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア)曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。